

キャリア教育の充実

本年9月に議会報告がなされました「令和5年度 全国学力・学習調査及び埼玉県学力・学習調査結果」を拝見した時に、本市の小学校6年生と中学校3年生の国語及び算数・数学の平均正答率は、教科・学年によって全国平均や県平均を上回る教科もあれば下回る教科もあるものの、どれも誤差約1点から2点となっており、忙しい中先生方は本当に頑張っていると感じると同時に、この平均点を比較することに意味はあるのか、と例年疑問を抱いておりました。

そのような中で、石川県の同調査結果についての報道を目にしました。

石川県は毎年この全国学力・学習調査結果において常に上位に位置しており、今年も全5教科中小学校6年生の国語と算数、中学校3年生の数学の合わせて3教科で全国1位だったようですが、報道では「行き過ぎた事前対策」として取り上げておりました。

授業中や宿題、春休み期間中に繰り返し過去問を解くなどの事前対策が常態化しており、教員からも「結果が悪いとテコ入れされ、1年間学習調査のために仕事している印象」との声がある報道であり、全生徒が全科目で全国平均や県平均を上回ることが教育ではないと抱いていた疑問が晴れたように感じました。

一方、発信媒体によって違いはありますが、最近の小学生の将来の夢では、男の子ではサッカー選手や野球選手、医師、ゲーム制作関連、警察官など、女の子では、医師や保育士、獣医、美容師などが上位となっているようです。

数年前に将来の夢の上位と報道されていたユーチューバーは、既に上位から外れつつあるのを見ますと、今の子どもたちの将来の夢は、ネット媒体の広がりなどによって数年で変化していくのだと考えさせられると同時に、大きくなるに従って次第に自分の夢を口にしなくなるのは、先に申し上げた学力を上げることばかりに周囲が注目することにも問題があるのではないか、と感じました。

中央教育審議会の「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、子どもたちが将来就きたい仕事や自分の将来のために学習を行う意識が国際的にみて低く、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況があると示されており、キャリア教育では、年齢や学年、一個人でも成長によって変化したとしても、この将来の夢こそが、これからの時代を生き抜いていく子どもたちにとって、必要なのではないかと強く感じております。

実際に、夢を持ち続け行動し、現実にもその夢を実現した分かりやすい例としては、オリンピックメダリストや今話題のメジャーリーガー大谷翔平選手などだと思います。

過去に何人かのオリンピックメダリストの方々にお話を伺う機会がありましたが、オリンピックメダリストでたまたまメダルを取った選手はおらず、多くの選手は子どもの頃から夢を持ち、それに向かって努力し狙って獲ったのだと感じました。

そして大谷選手は小学校1年生の時には野球選手と将来の夢を書いており、高校1年生の時に書いた、中心に「ドラ1・8球団」と記された、その夢を達成するためにやるべきことを明確にした81マスのマンダラチャートは非常に有名です。

夢や目標を持ち、どのように自分のキャリアを積んでいくか、キャリアアップをしていくかを考えていたからこそ、彼らは夢を実現できたのではないのでしょうか。

ただこれは、オリンピックメダリストや大谷選手だからできたとは考えておりません。

子どもたちをしっかりと導いてあげることができれば、その可能性は無限大に広がると思います。

そしてその導いてあげることこそがキャリア教育だと考えております。

アスリートでなくとも、その職業の第一人者と呼ばれるような方々はきっと同様に夢や憧れ、目的・目標を持って努力を重ねてきたものだと思います。

そして周囲には夢に導いてくれるような人や環境があったと思います。

がむしゃらに勉強するから夢がかなうのではなく、将来の夢を持つから、その夢に向かってどんな勉強をしたら良いのか、どんなキャリアを積みば良いのか主体的に考え、行動できるのではないのでしょうか。

そしてその将来の夢を実現するためには、どんな知識や技術が必要か、今何を学ぶべきか、夢への道筋を明確にイメージすることが必要であり、そのために何よりも有効なことは、その職種の方から直に話を聞くことではないかと思います。

そのような背景から今後のキャリア教育に不可欠なことについて質問を通して提言を行ってまいります。

先週地元の二人の中学生が社会体験として私に関わる事業所に二日間実習に来てくれました。

事前に受入可否の連絡をいただき、ぜひこの仕事を生徒に深く知って、感じてもらいたいと思い喜んで受入をさせていただきました。

残念ながら私は議会中で当日の立ち合いはできませんでしたが、二人とも非常に真面目で礼儀正しく事業体験を熱心に終えられたと聞いております。

そこでまず1回目の1点目としまして、

【1回目】

●この社会体験事業の意義及び実施状況についてお伺いします。

A：中学生が社会体験事業を行う意義及び実施状況についてでございます。

まず意義についてでございます。中学校学習指導要領では、特別活動の内容として、「社会の一員としての自覚や責任を持ち、社会生活を営む上でのマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること」が示されており、児童生徒が地域の事業所等での職業体験を通して、学校では得ることができない経験をすることで、社会へ参加する意識や勤労観、職業観を養うことに意義があるものでございます。

次に実施状況についてでございます。令和2年度から令和4年度までの3年間はコロナ禍のため、実際の職場での体験は実施できませんでしたが、令和5年度は22校中21校において、全ての中学1年生を対象に実施しております。

未実施の1校については、今年度四年ぶりの実施となり、事業所の確保が困難であったため、今年度は机上学習といたしましたが、来年度は実施予定となっております。

2点目としまして、

●社会体験事業はどのような事業所で職場体験を行っているのか？お伺いします。

A：どのような事業所で職場体験を行っているのかについてでございます。

各学校では、まず受入が可能な事業所と調整を図り、生徒の希望に基づき、体験先を調整しております。

具体的には、学校周辺地域の公民館や消防署等の公共施設をはじめ、ホテルや保育園、小売り店等、幅広い業種の事業所において職場体験を行っております。

数年前から学年末に娘たちが「キャリアパスポート」と書かれたファイルを持って帰ってくるようになりました。

将来の夢やがんばりたいことなどの項目があり、それぞれ記入し、振り返りができるようになっているもので、初めて見た時には、こんな素晴らしい取り組みをしているのか、と感じました。

そこで3点目としまして、

●このキャリアパスポートとはどのようなものなのか？

A：キャリアパスポートについてでございます。

キャリアパスポートは、平成31年3月29日付、文部科学省初等中等教育局児童生徒課からの事務連絡「キャリアパスポート例示資料等について」に基づき、令和2年度より全国で一斉に取り組んでいるものでございます。

例示資料には、児童生徒が将来の夢やがんばりたいこと、好きなことや自分の良いところなどについて、目標設定をして振り返りができるように示されており、小学校から高等学校ま

での12年間にわたり、自らの学習や生活について、学年の始めに、今の自分を見つめて目標を立てると共に、学期末や学年末にこれまでを振り返って自己評価し、今後の思い等を記録し、蓄積していくものでございます。

4点目としまして、

●キャリアパスポートはどのように活用されているのか？お伺いします。

A：キャリアパスポートがどのように活用されているかについてでございます。

キャリアパスポートに記録・蓄積した自らの学校生活における取組を振り返ることで、新たな学習や生活への意欲に繋げたり、将来の生き方を考えたりするとともに、児童生徒の記録内容に対して、学級担任の教員等が対話的な関わりを持つことで、児童生徒の気付きを促したり、自己有用間を高めたりするような機会として活用しております。

また各学校では、転出や進学にあたり、学校間、校種間にて適切に引継ぎを行い、キャリア教育の視点での円滑な接続を図れるよう取り組んでおります。

先ほど娘が持って帰ってくるキャリアパスポートには、将来の夢の項目があったと申し上げましたが、5点目としまして、

●キャリアパスポートにおいて、将来どんな職種に就きたい児童生徒が多いのか？把握している状況について、お伺いします。

A：キャリアパスポートを用いた活動において、児童生徒が将来就きたい職種を把握しているかについてでございます。

キャリアパスポートの書式は、各学校・学年の実態に応じて作成されており、統一した書式ではないことから、すべての学校で児童生徒の将来就きたい職種を把握している状況ではございません。

6点目としまして、

●社会体験事業以外で、小中学生が様々な職種の方々に直接触れる機会があるのかをお伺いしまして1回目とします。

A：小中学生が様々な職種の方々から話を聞いたりする機会があるかについてでございます。各学校においては、身近な人への職業インタビューを行ったり、自身の興味のある職種について調査したりする学習に取り組んでおります。さらに、その学びを学級内や学年内で発表しあったり、資料を提示したりすることで、様々な職種について理解を深めております。また、コロナ禍で実施できなかった令和2年度を除いて、中学校では3年に1回、医療現場で働いている方や、スポーツ・音楽を生業としている方など、社会の様々な分野で活躍する地域の方々を講師に迎え、働くことの意義について学ぶ「キャリア教育講演会」を実施しております。

【2回目】

中学生社会体験事業は、すべての中学1年生を対象とし、コロナ禍での3年間は実施しておらず、今年度から再開し21校で実施しているということ、その意義としては職業体験を通じて勤労観や職業観を養うこと、とのご答弁でした。

職場体験にあたっては、事前に受入が可能な事業所と調整をしたうえで、生徒の希望に基づいて体験先を調整し、幅広い業種の事業所において実施されているとのことでした。

この受入可能な事業所の選定にあたっては、私の関わる事業所でも地域の方から受入可否の依頼があったように、自治会や地域の方などの協力のもと選定されているものと思いますが、同様に社会体験の事業所選定に関わっていた別の知り合いの方からは「うちの地域は社会体験を実施したくても近隣に受け入れてくれる事業所、そもそも企業や事業所が少なく調整が非常に難しい」との相談を受けたことがあります。

そのような場合には生徒にとって事業所の選択肢が非常に少なくなるでしょうし、そうでもなくとも学校周辺という地域に限定されることで希望する職種の事業所が必ずしもあるとは限りません。

さらに言いますと、受験や就職活動などの進路選択に選択肢はあっても、子どもの頃から将来就きたい職業や夢に第二希望はないのではないのでしょうか。

そこで2回目の1点目としまして、

●社会体験事業で近隣に生徒の希望する職種の事業所がない場合に、自分で事業所を見つけて行ったような事例は過去にあるのか？お伺いします。

A：社会体験事業で希望する職種がない場合に、生徒自らが事業を見つけて行ったような事例についてでございます。

社会体験事業の体験先事業については、各学校の教員が、生徒の行き帰りの安全や職種のバランスを考慮し、決定しているものでございます。その体験事業所について、生徒自らが見つけ、職場体験を行った事例は把握しておりません。

キャリアパスポートについてもご答弁いただきました。

キャリアパスポートは令和2年度から全国一斉に取り組みされているということ、文科省より示されている資料では、児童生徒の将来の夢やがんばりたいこと、好きなことなどについて目標設定をして、小学校から高校卒業まで12年間継続して学期末や学年末に振り返り、自分の軌跡として蓄積していくものだと理解しました。

そしてその活用については、学校間・校種間で適切に引継ぎを行い、児童生徒の記録内容に対して学級担任等が関わり合いの中で活用しているとのことであり、児童生徒が夢について発表したりする機会はないと理解させていただきました。

先日参加した講演会で、「言葉の力は非常に大きく、他人に対してだけでなく自分に対して

も非常に影響があり、発する言葉はまず自分の脳に強く影響する」と私自身非常に納得できるお話を聞くことができました。

それを聞いて「夢は二度叶う」と若い頃に聞いたことを思い出しました。

一度目は、その夢を声に出して発し、頭の中でカラーで鮮明にイメージした時に叶い、そして二度目は現実に叶うとの話です。

夢を誰かに発表すること、声に出すことで自分の意識が変わり、行動が変わり、習慣が変わり人生を変えてくれるものだと思いますので、ぜひ希望する児童生徒が発表できるような機会を作っていただければ、と思います。

市内児童生徒の将来の夢の把握については、学校や学年などに応じて統一された様式でないため把握はしていないとのことでした。

キャリアパスポートとは、それぞれの夢や目的・目標にしっかり導いてあげることが何よりも大事なことだと思いますので、担任だけでなく、もっと幅広い教員等が把握する必要があるものと感じます。

またしっかりと児童生徒と向き合い、そのように導いてあげる機会としては二者面談や三者面談等があるものと思いますが、2点目としまして、

●二者面談、三者面談等においてキャリアパスポートを活用し、将来の夢の実現に導くような指導はされているのか？お伺いします。

A：二者面談、三者面談等でキャリアパスポートを活用しているのか、についてでございます。

二者面談や三者面談等においては、学校での生活や授業の様子、学習内容の定着状況や進路などについて確認したり、それらの成果と課題を踏まえた今後の取り組みについて、児童生徒と保護者、教員が共通理解を図ったりすることを中心に実施しております。

そうした面談の中で、児童生徒の実態に応じて、キャリアパスポートの記述に触れることも想定されますが、必ずしも活用しているものではない状況でございます。

改めて、面談等での有効な活用方法について検討してまいります。

社会体験以外で小中学生が様々な職種の方々から直接話を聞く機会についてもご答弁いただきました。

職業インタビューや興味のある職種について調査して発表したり、資料を提示したりするなどして共有し理解を深め、さらに中学校では3年に1回、医療やスポーツ・音楽など様々な分野で活躍する地域の方々に講師に迎え直接話を聞くことができる「キャリア講習会」を実施しているとのことでした。

様々な職種、特に自分に興味がある、将来就きたい職種の方から直接話を聞ける機会は、先ほど申しあげました夢をカラーでイメージするにあたって非常に重要であり、未だ明確な夢がない児童生徒にとっても夢がイメージできるようになる可能性が広がる素晴らしい取

り組みであると思います。

ただ中学校で3年に1回、つまり中学在籍中に1度しかそうした機会がないことは非常に勿体ないと感じます。

今はその場に来ていただかなくてもネット回線を使い Zoomなどでタイムリーに顔を見ながら話ができる時代です。

そこで3点目としまして、

●児童生徒が一人一台持っている学習用コンピュータを活用して様々な職種の方々の話を直接聞くことは可能か？をお伺いしまして2回目とします。

A：学習用コンピュータを活用して、様々な職種の方々から話を聞くことができるかについてでございます。

キャリア教育の中で、様々な職種の方々から直接話を聞くことは、学ぶことや働くことの意義を深め、進路に対するイメージを培う上で有効な取り組みであると捉えております。

学習用コンピュータをインターネット回線で繋ぎ、離れた場所から直接話を聞いたり、質問をしたりすることは可能で、各学校の実態に応じて実施している学校もございます。

社会体験事業は働くということとはどういうことなのかという勤労観とともに、どのような職業なのかを深掘して学ぶ職業観を養う非常に良い機会である**と思います**。

だからこそ生徒自らが希望して選択した職種の企業や事業所に行くことは、生徒の自主性を尊重するため、そしてそれが将来自分が就きたい職種であるならば、必要な知識や技術を直に学び・感じることができる代えがたいものになるのではないのでしょうか。

児童・生徒が希望する職種の企業や事業者が近隣にない、あるいは受入ができない場合に、これまで生徒自らが希望の事業所を見つけて職場体験を行った事例はないとのご答弁でしたが、近隣でなくとも保護者や知り合いなどのツテで受入可能な企業・事業所があれば、行き帰りの安全性を確保したうえで、ぜひ臨機応変に対応していただきたいと思います。

この点は申し上げるに留めておきます。

二者面談や三者面談においてのキャリアパスポートの活用についてもご答弁いただきました。

二者面談や三者面談において、キャリアパスポートを活用し、将来の夢の実現に導くような指導については現在積極的に行われていないと理解させていただきました。

第三次川越市教育振興基本計画及び本年3月定例会における教育長の教育行政方針において、「児童生徒が主体的に目的意識を持って自分の進路選択等ができるように」とありますが、まさにその目的意識こそが夢であり、夢があるからこそ主体的に勉強に励むものではないのでしょうか。

夢を持つからこそ、その夢を実現するためにはどんな勉強が必要か、どんな知識が必要か、主体的に考え行動するものではないのでしょうか。

もちろんそれぞれの教科には学ぶ意義があり、投げ出して良い教科はないものと考えておりますが、目的意識もないままにやる勉強と目的意識をもってやる勉強、言い換えればその教科を勉強するための動機付けがあるか、ないかでは頭に入ってくることに大きな違いがあることは誰しもが経験したことがあるものと思います。

キャリアパスポートはまだ運用年数が浅いこともあり、その活用については手探りな部分もあるかと思いますが、全ての教科を平均点以上にではなく、個人個人の児童生徒にとって目的意識のある教科、得意な教科を伸ばし、ご答弁にありましたように将来の夢に導いてあげるように面談等で有効な活用をしていただければ、と思います。

学習用コンピュータを活用して様々な職種の方々から話を聞くことについては、インターネット回線で繋ぎ、離れた場所から直接話を聞いたり、質問をしたりすることは可能であるとのことご答弁でした。

今はYouTubeなどで全世界の様々な方々の動画などを見たり聞いたりすることができます。ですが、将来なりたい職種の方々の話を直接聞いて質問できる機会というのは、それぞれの

夢をカラーでイメージできるようになるために、YouTube などですぐに見ただけよりもはるかに価値があるものと感じます。

一回目の質問に対しての答弁では、コロナ禍で社会体験は3年間、キャリア教育講演会は1年実施できなかったとごさいました。

これは児童生徒にとって貴重な代えがたい体験ができる大きな機会損失だったと捉えています。

一人一台のタブレットを活用すれば、コロナ禍でも貴重な体験をすることができたものと思います。

また不登校の児童生徒でもタブレットを活用すれば、自宅で貴重な体験をすることができ、その中で夢や希望を見出し、自分の力で歩むことができるようになるかもしれません。

もちろん講師となる方の選定や時間調整、受け手側も対象をクラスや学年ごとにするのか、学校を超えて希望者を対象とするのか、など課題もあるとは思いますが、

●子どもたちが夢を持ち将来何が必要か主体的に考え、そしてその夢を追うプロセスの中で成功し失敗し成長していくためにも、様々な職種の方から直接話を聞く機会をもっと増やしていくべきと考えますが、最後に教育長にお伺いしまして私の一般質問とします。

A：子どもたちが夢を持ち、成長してゆくために、様々な職種の方から直接話を聞く機会を増やすことについての見解でございます。

子どもたちが夢を持ち、成長してゆくためには、義務教育である小中学校9年間において、自分の特性や良いところを教員や家族、友達から認められ、将来に向けて自分の理想や夢を思い描けるようにすることが、児童生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育むことになり、それこそがキャリア教育の基本理念であると考えております。

こうしたプロセスの中で、さらに、児童生徒が様々な職種の人々から直接話を聞く機会を持つことは、児童生徒に「学ぶこと」「働くこと」「生きること」への関心・意欲等を高め、社会人として必要な基礎的で汎用的な能力を培うことへの有効な動機付けになると考えられることから、学習用コンピュータの活用も含めた様々な機会を設定するとともに、今後も職場体験や福祉体験等を一層充実してまいりたいと考えております。

また現在本市で推進している「ふるさと学習」において、川越や現代社会における様々な課題について関心を持ち、自ら貢献していこうとする姿勢を育むことも、児童生徒が将来進むべき道を選択していく力になると考えております。